

◇ 修士論文要旨（昭和50年3月卒業生）

東京のオープンスペース

としての寺社景観

武井 淑江

1. はじめに

近年は都市に於けるオープンスペース概念の発展により、単なる空地としてのそれから積極的な保存思想を基軸とする考え方がでてきている。その一つとしてW・H・ホワイトはオープンスペースとランドスケープをほぼ同義としてオープンスペースの確保＝景観保存を提唱した（都市とオープンスペース、1971）。

本論では、このようなオープンスペース論の展開のなかで、在来の空地を持ち、景観的にも伝統と特異性を持つ寺社を、都市オープンスペースとして取り上げた。東京（23区域）を対象地域に、オープンスペース＝景観の立場から、都市に於けるその現状を調査し、考察を行なった。

2. 調査法設定及び調査 I

東京23区部の中からサンプルとして寺社面積の大きい地区40を選出した。これは東京都が昭和48年2月に行った500m座標によるポイントサンプリング調査をもとに、その他東京3000分の1地形図、東京案内図を参考に、10%（25000m²）の寺社面積をもつメッシュをとり出し、それらを地域的内容的にまとめたものである（第1表地区名参照）。そしてその地区のみを対象とした調査I（位置、寺社面積、寺社数と内容、地形、成立年代）と、各地区の個々の寺社を対象とした調査II（各寺社面積、墓地、境内地の使用、本堂、門、前面）を行った。前者はいわば対象地域の予備的調査で、後者の背景である。方法は図上、文献、実地観察調査等で行なった。

調査Iの結果は第1表のとおりである。位置は、中心地（東京駅）からの距離5km内外が、寺社面積は単位メッシュ当たり10%台が圧倒的に多い。寺社数は合計604で、寺院が553（92%）、神社44（7%）、その他（都営霊園、御陵など墓地関係）7（1%）であった。これらの構成状態から、(1)大神社(2)墓園とまわりの寺社、(3)中心寺院とまわりの寺社、(4)寺社の混在に分けた。すると(1)－5、(2)－4、(3)－8、(4)－23で、中心になるものをもつ地区（(1)、(2)、(3)）と持たない地区（(4)）がおよそ半々である。地形的には台地部に多く、台地部を台地面、斜面、低地面に分けると、台地面がさまざまに多く使われている。寺社地域の成立時代は、江戸時代及びそれ以前に成立－27、明治一戦前が13、戦後が0で、明治以前に $\frac{2}{3}$ が形成されていた。

これらは位置を中心として、旧市内（5km以内を中心として7.5kmまでのかつての旧市内 中間部（新市域のうち7.5km以内）、周辺部（新市域のうち7.5km、主に10km以上）でまとめることができる。つまり旧市内（18地区）は他に比べ、10%台が多く、寺社数も多く、地形的には台地部東端が多く入るため坂の多い寺社地域となり、圧倒的に江戸時代成立のものが多し。周辺部（13地区）は、20%台の寺社面積が多くなり、1メッシュ当りの寺社数が少なく地形的にも台地面が中心になる。中間部（9地区）はその中間の様

表1表 寺社地区の概観（調査Ⅰ）

	中心地 からの距離	(1) 地形	単位 数	1単位 当りの寺社 面積%	寺社数			(2) 寺 構 成 内 容 と 社 数	(3) 成 立 時 代				
					寺	社	他 計		江戸 以前	江戸	明治 戦前	戦後	
靖国神社	5	台 a	1	20		1	1	社 D			●		旧市内
青山	5	台 b	2	30	6		1	墓 D		○	●		＃
愛宕	5	台低 c	1	10	16	1	17	混 A		●			＃
芝公園	5	台低 c	2	15	23	2	25	中 B		●			＃
三田	5	台 c	1	15	31	1	32	混 AA		●			＃
麻布	5	台 c	1	10	18	1	19	中 A	●	○			＃
高輪	7.5	台 c	1	15	12	1	13	混 B		●			＃
牛込	5	台 c	2	15	27	3	30	混 A		●			＃
四谷	5	台 c	1	10	25	2	27	混 AA		●			＃
護国寺	7.5	台 c	1	30	3	2	2	中 C		●			＃
本駒込	5	台 a	2	15	33	1	34	混 A		●			＃
下谷	5	低 d	1	10	19	1	20	混 A		●			＃
上野	5	台低 c	2	20	12	1	13	中 C	○	●			＃
谷中墓地	5	台低 c	1	30	4		1	墓 C	●	○	○		＃
谷中	5	台 c	2	30	63		63	混 AA		●			＃
今戸	7.5	低 d	1	10	16	2	18	混 A		●			＃
西浅草	5	低 d	1	15	38	1	39	中 AA		●			＃
深川	5	低 d	1	10	26	1	27	混 A		●			＃
上大崎	7.5	台 b	1	10	9		9	混 C		●			中間部
北品川	7.5	台低 c	1	10	5	1	6	混 C	●	○			＃
南品川	7.5	台低 d	1	10	17	3	20	混 A	●				＃
中目黒	7.5	台 a	1	10	2		2	中 D		●			＃
池上	15	台低 c	2	30	19	2	21	中 B	●	○			周辺部
荻中	15	低 d	1	10	6	1	7	混 C			●		＃
烏山	15+	台 a	2	20	21		21	混 B			●		＃
喜多見	15+	低 d	1	10	1	2	3	混 D	●	○			＃
豪徳寺	15	台 a	1	20	3	1	4	混 D	●				＃
奥沢	15	台 b	1	20	2		2	中 D		●			＃
千駄ヶ谷	7.5	台 b	1	10	5	1	6	混 C		●			中間部
明治神宮	7.5	台 c	4	30		1	1	社 D			●		＃
東郷神社	7.5	台 d	1	10		1	1	社 D			●		＃
上高田	10	台 b	2	10	15	1	16	混 C			●		周辺部
井草八幡	15+	台 a	1	10		1	1	社 D	●				＃
南高円寺	15	台 c	2	20	20	1	21	混 B			●		＃
大宮八幡	15	台 a	1	10		1	1	社 D	●				＃
下高井戸	15	台 b	1	20	9	1	10	中 B			●		＃
染井	7.5	台 b	1	30	7		2	墓 C			●		中間部
雑司ヶ谷	7.5	台 b	3	20	14	3	1	18	墓 C	○	○		＃
練馬	15	台 c	1	10	13	1	14	混 B			●		周辺部
伊興町	15	低 d	1	10	13	1	14	混 B			●		＃

註) (1)台…台地部 低…低地部 a…台地が主 b…台地面・斜面 c…台地面・斜面・低地面 d…低地面が主
 (2)社…大神社 墓…墓園 中…中心寺社 混…混在 A…15以上(AAは25以上) B…10以上 C…5以上
 D…1以上
 (3)○寺社の成立時代 ●地区の主なもの(主に面積的)が成立した時代

相を示す。この位置的分類は、大ざっぱな都市化の傾向に一致するもので、調査Ⅱの一示標とする。

3. 調査Ⅱ

ここでは対象地区の個々の寺社を対象として、寺社の景観的特徴を前述の6項目について調査した。結果は、

○各寺社面積 500～1000坪が76%を占めて集中するが、これは対象地区を寺社面積の大きいところで設定したことを考慮しなければならない。又位置的には2000坪以内の範囲で周辺部でより広がる(第2表)。

○墓地(寺院のみ) 寺院の周辺にあるかどうかということで、“あり”が約93%を占める。位置的にはそれほどの違いはないが、周辺部にやや多くなる。逆に旧市内では、“ない”に含まれる納骨堂や他地区にあるものが見られるようになる(第3表)。

○境内地利用 これは宗教的利用以外の使われ方を調べたが、景観的観点から6つにまとめた。第4表を見て認知できる範囲では、比較的簡単に設置できる駐車場が圧倒的に多く、全体の寺社に対する割合は28%で、神社だけではそれより高くなる。位置別では、利用しているものの割合は旧市内・中間部・周辺部よりも大きくなるが、大した差はない。ただ駐車場、幼稚園の比率にその位置の差がはっきり見られる。前者は旧市内でより大きな割合をもち、後者は周辺部に行く程その割合を増す。

○本堂 形と材質から第5表のように6つに分けた。形では伝統形式が約66%、新式が18%、材質は木造：コンクリート＝7：3である。しかし位置別に見ると、ほぼ違いがなく同じような割合を示す。そこでもっと細かく地区別に見ると、第二次世界大戦による罹災地との関係が見られた(例えば旧市内でも、非焼失の谷中、焼失の浅草の違い等)。

○門(寺院のみ) 伝統的な屋根付門が25%、普通の門が60%で計85%が何らかの形で扉のある門を持つ。位置別では周辺部で、屋根付門及び門を有する割合が多くなるが、同時に、本堂ほどははっきりではないが戦災との関係も見られる(第6表)。

○前面(500坪以上の寺院) 前面をストレートに出しているのは約半分であり多いが、ほとんど入口程度で道路に面さないものも $\frac{1}{4}$ ある。位置別には周辺部ほど前面がストレートに出ているものが多く位置的变化が見られる(第7表)。

4. 考察

以上の調査結果から、東京の寺社のオープンスペース景観を規定している要因として以下のことが考えられる。

まず全般の結果から、各寺社面積、墓地、本堂、門、前面(の場合、以前から門前町という形態もあったが)などで、半数以上が伝統的景観を示し、伝統宗教としての寺社が中心的存在を保っていることがわかる。しかし一方、本堂、門、境内利用などで、伝統的なものとは違った新しい形態があらわれ、それらが伝統的形態と混合されるなど、多様な景観が見られるようになった。そしてその多様性は本堂や門の一部のように、何らかのシンボルを必要とする宗教景観としての独自性を強調する方向と、又一方では本堂や門の一部、境内地利用などに見られるように、主に経済的理由、及び現代社会に於ける宗教の変化等から、その特徴的景観を減じる方向が見られる。

分布の違いからは、「都市化」・「戦災」の影響を認めることができた。都市化の影響は、位置的变化

を示した各寺社面積、墓地、境内地利用、前面、(門)などで見られ、中心部では全体的に土地の細分化、高度利用化の傾向を示し、広く寺社の体裁を整えることは経済的な面からいっても難しくなってきた。戦災の影響は、本堂、門において見られた。そしてこれは戦後の技術革新や宗教(特に伝統的)の社会的位置の後退が、従来とは違った景観を生み出している。又、戦後の寺社の経済変化—国家の優遇措置が大きく減少したこと、植徒・氏子の離散—の影響も大きいと考えられる。

5. おわりに

この調査・考察の結果をまとめると、現在の都市オープンスペースとしての寺社は、かつての伝統的寺社イメージに対して、多様な変化傾向を示していると言える。しかし都市オープンスペースが不可欠のものと考えられる現在、寺社オープンスペースのこれ以上の減少はマイナス現象と考えられ、減少につながる変化に対しては賛成することはできない。変化に対しオープンスペース景観の“保存の思想”が必要と思われる次第である。

第2表 各寺社面積

合計	2000坪以上	1000坪～2000坪	500坪～1000坪	100坪～500坪	100坪以下
旧市内 397 (100%)	29 (7%)	34 (9%)	105 (26%)	212 (53%)	17 (4%)
中間部 72 (100%)	13 (18%)	7 (10%)	29 (40%)	20 (28%)	3 (4%)
周辺部 135 (100%)	23 (17%)	19 (14%)	69 (51%)	22 (16%)	2 (2%)
合計 604 (100%)	65 (11%)	60 (10%)	203 (34%)	254 (42%)	22 (4%)

全住宅案内地図帳(S.44)などの図上測定による。

第3表 墓地

第4表 境内地利用

	合計	あり	なし		合計	駐車場	幼稚園	住居系	会館	その他	園地
旧市内	372 (100%)	340 (91%)	32 (9%)	旧市内	118	85 (4)	18 (3)	7 (1)	2 (1)	4 (4)	2 (3)
中間部	59 (100%)	53 (90%)	6 (10%)	中間部	22	13	6	1	1	(1)	1 (2)
周辺部	122 (100%)	120 (98%)	2 (2%)	周辺部	30	12 (1)	11 (1)	1	3	2 (4)	1 (5)
合計	553 (100%)	513 (93%)	40 (7%)	合計	170	110 (5)	35 (4)	9 (1)	6 (1)	6 (8)	4 (1)

1974.10～11. 現地観察調査による
以下(第4表～第7表も)同じ

()をたすと延べ数

第5表 本堂(含本殿)

	合計	木造伝統	コンクリ伝統	新式	普通の家	ビル一角	祠その他
旧市内	393 (100%)	208 (53)	44 (11)	75 (19)	53 (13)	10 (3)	3 (1)
中間部	69 (100%)	47 (68)	8 (12)	8 (12)	5 (7)	0 (0)	1 (1)
周辺部	135 (100%)	88 (65)	15 (11)	17 (13)	15 (11)	0 (0)	0 (0)
合計	597 (100%)	343 (57)	67 (11)	100 (17)	73 (12)	10 (2)	5 (1)

第6表 門 (寺院のみ)

	合計	屋根付門	普通の門	なし
旧市内	374 (100%)	76 (20)	236 (63)	62 (17)
中間部	59 (100%)	16 (27)	35 (59)	8 (14)
周辺部	120 (100%)	47 (39)	61 (50)	12 (11)
合計	553 (100%)	139 (25)	332 (60)	82 (15)

第7表 前面の様子 (500坪以上の寺院)

	合計	a	b	c
旧市内	160 (100%)	54 (34)	43 (27)	63 (39)
中間部	42 (100%)	21 (50)	5 (12)	16 (38)
周辺部	102 (100%)	89 (87)	7 (7)	6 (6)
合計	304 (100%)	164 (54)	55 (18)	85 (28)

- a. 前面がほとんど道路に接する
- b. 半分ほど
- c. ほとんど道路に出ない(入口程度)

阿武隈山地の牧草地立地 に関する地理学的考察

武田(渡辺)むつみ

本論文は福島県東部に位置する阿武隈山地、特に中央部を流れる大滝根川-夏井川以北の北阿武隈山地を調査地域として、近年の畜産振興に伴ない本山地でも造成が進んできている牧草地について、その立地の主に自然的(特に地形)側面からの考察を試みることを目的とした。

そこで本稿はまず第一章で阿武隈山地の自然環境としての地形をとりあげ、地質とともにその系統的把握を行なった。続く第二章では地域の牧草地分布の諸面、すなわち馬飼養時代の野草地分布、現在の土地利用と牧草地分布、さらに大規模草地の開発と地域の農業的総合開発にふれ、これら